

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

き

男子 女子 1回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
県立今治東中等教育学校	30	16	—	8	県立日川高等学校
		14	—	9	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

1回戦、四国地区代表の今治東中等教育学校と関東地区代表の日川高等学校の対戦となった。

開始早々、日川⑥番の先制点が決まる。その後、今治東⑩番のポストプレー等が決まり、前半6分

5対2で日川のTO。今治東③番のカットプレーやミドル等で得点を重ねる。前半16分9対4今治東

リードを5点差まで広げ、日川 2回目のTO。日川、⑦番⑩番のシュートで得点を重ねるも、今治

東のパスカットによる速攻などで、前半25分、今治東のリードは7点差となる。前半16対8で、

今治東8点差のリードで終了する。後半6分、今治東は、速攻からの攻撃を中心に、21対10とし、

リードを11点差とする。日川は粘り強いディフェンスで頑張り、速攻もさすが今治東の好ディ

フェンス、今治東②番キーパーの好セーブもあり、なかなか得点が入らない。後半19分 25対15

となる。今治東のTO。後半22分、26対15 となり、日川TO。日川は今治東③番に対してマンツ

ーマンをするが、得点差は変わらず、後半26分27対15となる。その後、今治東⑧番の速攻が決ま

り、得点を重ねる。30対17で、今治東の勝利となり、今治東は2回戦に進出した。

30年3月24日

記載者氏名 中野 健

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

く

男子 女子 1回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸

Bコート

チーム名	総得点		総得点	チーム名															
横浜創英高等学校	<u>23</u>	<table border="0" style="text-align: center;"> <tr><td>7</td><td>—</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>8</td></tr> <tr><td>2</td><td>—</td><td>0</td></tr> <tr><td>0</td><td>—</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>—</td><td>4</td></tr> </table>	7	—	10	11	—	8	2	—	0	0	—	2	3	—	4	<u>24</u>	県立氷見高等学校
7	—	10																	
11	—	8																	
2	—	0																	
0	—	2																	
3	—	4																	
		7mTC																	

第4試合は9回目出場の横浜創英と19回目出場の県立氷見との対戦。横浜創英11番のサイドシュートが決まり先制するも、直ぐさま氷見も3連続得点する。前半開始から5分でお互い点の取り合いとなる。縦横無尽に動き回る横浜創英、一方粘り強く機動力を活かしたプレーの氷見。どちらも譲らず交互に得点を重ね、互角の展開となる。キーパーの好セーブで氷見の攻撃を凌いでいた横浜創英だが、氷見のスピードある多彩な攻撃に徐々にリードを許していく。前半20分で氷見が7対5とする。その後もお互い点を取り合い、前半を10対7で終える。後半は横浜創英の得点から始まる。氷見のミドルシュートが決まれば、横浜創英も速攻でやり返す。疲れの見え始めた氷見に退場者が出たことを契機についに後半11分で横浜創英が同点に追いつく。氷見は再び退場者を出すものの我慢のDFで横浜創英の攻撃を凌ぐ。後半19分以降互いに退場者を出す度にめまぐるしく得点が動く展開となり18対18で延長戦となる。延長戦に入ってから足が止まらない横浜創英が連続得点するが、延長後半氷見が追いつき7mTCなる。最後は4対3で氷見の勝利となる。

2018年3月24日

記載者氏名 上畑 正樹



平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 け

男子 ・ 女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名
学法石川高校	23	11	18	市川高校
		12	17	
		—		
		—		
		—		
		7mTC		

2年連続26回目の福島代表学法石川と、180cmを越える選手を5人揃える大型チームの千葉代表市川が対戦。市川のスローオフでスタート。序盤、学法石川は7番戸塚、5番濱津を中心に得点する。対する市川は3番白石のロングシュート、7番眞田の速攻などで点を重ねていく。4点差がついた所で学法石川はタイムアウトを取る。13番小豆畑のミドルシュートで1点を奪うも、4番土山の連続得点などで着実に加点し、前半18対11で市川リードで折り返す。後半もランパスからの速攻で連続得点するなど市川ペースで進む。学法石川も5番濱津のミドルシュートなどで食い下がるが、点差は縮まらない。後半13分、11点差がついた所で学法石川はたまたまタイムアウト。流れを引き寄せたいが、5番長谷川の得点で市川は流れを渡さない。7番戸塚のループシュート、13番小豆畑の連続得点などで反撃を試みる学法石川だが、その後も堅いディフェンスからの速攻などで突き放した市川が、終盤はメンバーを入れ替える余裕を見せ、初戦を突破した。

30年 3月 24日

記載者氏名 八幡 耕平